

5 県内で伝承されている昔話の特徴 その三 笑話

(1) 勘右衛門話

県内で最もよく聞かれる笑話は、何と言っても「勘右衛門話」(カンネ話)です。

大分の吉四六話、熊本の彦市話ほど有名ではありませんが、勘右衛門が佐賀県を代表するおどけ者であることは間違いありません。

記録化されていない話も含めると、採集された話数の総数は1,000話近くになると思われます。

ア 伝承範囲

伝承範囲は、唐津市を中心に、周辺部の西松浦郡玄海町、伊万里市、西松浦郡有田町、さらに、峠を越えて南の武雄市、多久市、さらに、小城市、佐賀市、神崎市までも広がっています。恐らく、県域を超えて、福岡県糸島市にも伝承されているものと思われます。

イ 代表的な話等

代表的な話は、「涙がこぼれる、泥鰯汁(勘右衛門話)」(No. 65)、「勘右衛門話(一番高つか山)」(No. 24)、「借金取りの香典(勘右衛門話)」(No. 44)、「勘右衛門話(息子のほら比べ)」(No. 26)などですが、これらは全て勘右衛門が頓智者か狡猾者の話です。

一方、後述するように勘右衛門が愚か者になっている話もあり、こうした話も含めると、種類数もかなりの数になります。

ウ 勘右衛門話の数が多い理由

勘右衛門話が他の笑話と比較して数や種類が特に多い理由は、東松浦地区では、笑話と言ったら勘右衛門話と言われるくらい勘右衛門話が有名なことから、勘右衛門話が笑話の核のような存在になっていたことによると考えられます。

このように有名になると、笑い話の主人公は全て勘右衛門さんに想定されると同時に、新しい笑話が他地区から入ってくると、直ぐに勘右衛門さんがした話のように変化していき、笑話といえば勘右衛門話のようになっていったと思われます。

例えば、「厳木の民話」(昭和55年発行、厳木町教育委員会)では、掲載している笑話約120話のうちの100話近く(約83%)を勘右衛門話が占めていることから、いかに圧倒的な伝承力を誇っていたかが分かります。

また、旧唐津市内では、勘右衛門さんは、実際に江戸時代、唐津の裏町に住んでいた人と言われており、墓もあるそうです。こうした実在の人物を想定していることも、勘右衛門話の伝承圏が拡大していった要因の一つだと考えられます。

エ 勘右衛門話の中の愚かな話

上記のように、勘右衛門話は勘右衛門を笑い話の核として色々な話を取り込んで広がっていきませんが、このことが、勘右衛門話の中に愚か者話も取り込んでしまうという結果にも繋がっています。

次の話は、愚か者の代表的なもので、所によっては、この話の方が勘右衛門話の代表的な話になっている

ところもあります。

「勘右衛門話 (甘酒、奈良漬、欠け茶碗)」(原文のまま)

勘右衛門さんがですよ、ひさしぶりにおぼっちゃん (叔母さん) の家に遊びに行ったら、「そいないば、白飯炊 (ちゃ) あて食わしゅうねえ」て言うて、米ば研ぎよんさったぎ、鼻水の落ちたけんね、そいけんね、「もう、食べん」て言うて帰んさったて。

そいから、また行ったらね、甘酒ば作っちゃったそうです。そいて、「飲まんか」て言いんさったけんね、知らじい飲みんさったぎ、おぼっちゃんの、「この前、お前がね、ご飯食べんやっただけん、あいで甘酒作った」て言いんさったて。

そいけん、鼻水で作った甘酒やっただもんじゃい、気持ちの悪うなって帰いよったら、奈良漬の落 (う) っちゃえとったけん、その奈良漬を食べたて。

そうしたら、向うから、痔の悪うした人の来てね、「お尻に挟んどった奈良漬ば落としたりけん、この辺に落ちとらんやっだらうか」て言いなつたけん、また気持ちの悪うないなって、また行きよらしたて。

そいぎ、お茶屋があつて、そこに目の悪かごたつ爺ちゃんの一人おんさったて。

そいて、茶碗が一つ欠けたのがあつたので、この欠けた茶碗では飲んどんさんやろうて、勘右衛門さんな、その茶碗で飲みよつたら、孫がチョロチョロ出てきて、「あら、爺ちゃんの茶碗で飲みよんさつ」ち言うたて。

～「小城の口承文芸」(平成17年発行、小城町教育委員会)より

また、本シリーズで取り上げた「勘右衛門話 (大飯食らいの嫁さん)」(No. 25) は、明らかに笑話ではなく、さらには主人公が誰なのかも分からない話になってしまっていますが、これも、元々別の話が勘右衛門話の中に取り込まれた結果です。

オ 県内の同じおどけ者話

口承文芸の世界では、勘右衛門話のような話は地域のおどけ者話と言われており、県外では、大分の吉四六話や熊本彦市話などが良く知られています。

県内では、勘右衛門話以外にも、太良町の善右衛門話 (ゼンネン話)、吉野ヶ里町の横道孫兵衛話 (オウドウマゴベイ話)、嬉野市の久惣十話 (クソジュウ話) 等があり、それぞれの地域で人気を博しています。

なお、主人公の職業はというと、太良の善右衛門は猟師や大工といい、吉野ヶ里の横道孫兵衛と嬉野の久惣十は農民といわれるようです。ちなみに、勘右衛門は、町人といったり農民といったり、必ずしも決まっているわけではありません。こうしたおどけ者の職業が、伝承の広がりによどのようにかかわっていたかは、今後の研究課題です。

カ おどけ者がいない地域では

こうしたおどけ者がいない地域では、「七兵衛・八兵衛話」という笑話がよく聞かれます。話は、勘右衛門話とほぼ同じような内容です。

七兵衛・八兵衛がどこの人かは特定されていませんが、逆にこのことが、おどけ者のいない地域において

話が伝承されていくためには、好都合だったと考えられます。

(2) その他の笑話

笑話には、勘右衛門のような頓智者の話がある一方、愚か者の話もたくさんあります。

県内でよく聞かれる話としては、「ヨイショはダンゴ(団子簞)」(No.97)があります。この話は、県内くまなく伝承が確認されており、この話と動物昔話の項目で取り上げた「蛙の親不孝」の二つは、何処に行っても、ほぼ間違いなく出てくる話と言っても過言ではありません。

このため、私達が実際にお年寄りから昔話を聞く際は、この2つから聞き出すようにしているくらいです。